

枅表紙

中

尺を
居士

0-69 ⑥

俳諧資料カード

年代 (元禄15)

編者 (筆者) (吾作)

書名 枅表紙

備考 録巻書
95p

(下垣内蔵)

柿衣紙 中

尺三寸
五寸

柿衣紙

柿衣紙



行表紙巻之四

碁陽七夕七組

早合と見えたりかすれ冷深
 涼深帯 杉よきあつた月
 福の香よきは元はあまきと

涼菟 松不 芳本

二

早あひの比は 福をの志まより
 月あちちと 松 振れま
 友梅の伝ふりあぬ 藤帝と
 方の雲志のすて 早は出合ふ
 翠もよきと見えたり 涼菟
 あまの字の半よきとあつと 八菊

芳本 南村 万里 万里 涼菟 八菊

藤の葉をば春やお前の号をよ 八菊

月夜よ山よ凡のしゆめを 萬里

新結の志よ夜の矢よしむく し由

千五

ち終ふ一葉はあゝお前の風 し由

月に入らばと山の端を 春本

土橋の端をわづらふは 万利

其六

笑ふその早はは、春、黄、万利

丸うまうー入るは日 八菊

衣の着よる夜の起るまで 枝不

千七

波姫の空いそくー言はず 枝不

そりーかくー月の片を 乙由

折のよみよびー春とかり花 源毫

松のまゝ

涼風と清ふ流るる星あけ

水物

白雲の中よりつらやわかに

糸着

早ゆゑにさるるあまのつゆ

相之

清房のまよりしやあまのつゆ

水物

葉のまよりしやあまのつゆ

昔件

春早のまよりしやあまのつゆ

昔後

七夕の涼と二徳やあまのつゆ

昔

七夕の神のまよりしやあまのつゆ

且物

七夕のまよりしやあまのつゆ

二件

涼風と清ふ流るる星あけ

上志

素直にゆふのつゆやあまのつゆ

底字

素直にゆふのつゆやあまのつゆ

底字

素直にゆふのつゆやあまのつゆ

底字

素直にゆふのつゆやあまのつゆ

底字

月代とていふにさしつゝ御下
十

人の子を養ひてまゐるわらうと
あま

お務めは十文子あしけし力福
原房

体しりし書きみまゝなりお務め
お等

初らるる中房あつちにお務め
音解

根太くしとく治守の事と心得
志字

昔又入やまの情の音書御散
河村

昔又入しと道のまじりの子とまじり
音解

八郎の杖とさるる風のも
あ川

八郎の杖とさるる風のも
二川

八郎の杖とさるる風のも
柳江

あ川の白川初り月あし
志字

あ川の白川初り月あし
志字

あ川の白川初り月あし
志字

あ川の白川初り月あし
志字

あ川の白川初り月あし
志字

月代のみききりく鶴の尻 朱題
西風ふりまふ斜あし 書月 許六
庭訓の中ふあまを 中書月 紫雲

探題 三句

京城名月

名月ふ二階のしやる 秋の沖 哲伴

湖上名月

名月と歳まよふらむに純 実 亮子

田家名月

田と圃の彦ハ所を川原に 名也

名月と揚の片の長巻法印 一白

名月と揚の片の長巻法印 周如

名月と揚の片の長巻法印 園吉

名月と揚の片の長巻法印 許七

名月と揚の片の長巻法印 玄伴

既更ハ初に女木のくさす
花子

初より木のくさす
花子

木のくさす
花子

初穂の中書と書か
花子

物入のよねけかりて
花子

本座のよのよ
花子

洛陽のむね
花子

くさす
花子

高佛のよのよ
花子

踊りつけ
花子

月夜の大口
花子

聖のあし
花子

初より
花子

花子のよのよ
花子

法興

市川（一）を流るる大川

尾城

清らけり花のりりや竹のす

尾城

あつさはつよゆらやきりる

尾城

河中の村はさしうづり

尾城

柳衣紙書こゝ

尾城重湯九組

一

廟所より雲や恨の多り

尾川

夢を破るいけり新ね

尾城

あつせりやまの月を

尾城

菊のうら物をつむ朝の雲 赤洗

はるき葉はくしゆきる 秋 万平

栂の月をのふ心はしほ 下長

いとこ

丸りと秋のまゝこや美れを 赤洗

高きよみれし喜れは 也小

乃高れ新そし知れ 且柳

凡の千の

帯細のりあれあめのみくろ 赤洗

帯のうけの浪中り 尚柳

道はあのみそしるあはれんき け也

いとこ

かろせよはるをさるう 赤洗

柳のあしをまへん 孤平

新柳のあしをまへん 換入

千六

浪人の噂はも柳枝葉は元 一考

山梨の草はふし申。新 月 地 草

柳^{ハヤ}葉のついでとて成るは 枝 加

千七

その草は何先生は語り 月 千 夾

その草はさすでお供は 枝 夾

月と草とあはれ馬は啼き 可 吟

千八

錦つとて柳はさすは 流 凡

接見の月つとて後 千 草

草をりり秋は草はれ 細 石

千九

草の草はさすは草は 夕 草

草の草はさすは草は 巳 草

草の草はさすは草は 素 草

栞のちしほ

新来のも信よりよよよよ
 瑞ふらふも新の世を
 大根もより一や
 白雲のれよちのりや
 白きくや堀のねを
 白雲より若あり

新の世
 瑞ふらふ
 北枝
 巾着
 瑞風
 北子
 老後

新来より新の世
 信より新の世
 新の世
 瑞ふらふ
 大根もより一
 白雲のれよち
 白きくや堀のね
 白雲より若あり

新の世
 信より
 瑞ふらふ
 北枝
 巾着
 瑞風
 北子
 老後

大角の隈方ありりり葉は系 許七

同月系

藤花子葉の島海と古 曆 し 書竟

新法師の影と如くう後此月 鹿川

葉葉とわうま山月のみ物ふ 秋夫

新くくく叶毎に事とほの月 巴摩

拿れよふ洲おそ葉一とん 西十 道

葉母よふくく叶毎に事 西十 道

牛鳥の葉是に一

牛鳥の葉是に一 島河島 元正

叶行とくくや秋の葉 島 洗柳

葉折と秋の葉や里まのり 澄吸

葉すよあふくく秋の葉物ふ 希亭

り秋の影と年と神在ふ 希伴

九月をみみの

かゝれく秋の葉をみ 希伴

やれきりる方程は書きまじりりぬ まき

きりきり川に何くそそ島 まき

あつりつはわさるや あつり

きりきりさるさる きり

あつりのいそふ神 あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

あつりあつり あつり

麻の糸ぬりの脚一と素山より 其仲

をくれば後より糸より少く糸 其年

糸麻の糸より山よりより 其年

明方々信ありききし糸は重 其年

秋より冬より糸の重白より 其年

糸の重一糸より糸の重白より 其年

糸の重一糸より糸の重白より 其年

